

# 梅鶯仏教壮年会報

第148号  
2018年  
4月21日

## 梅鶯仏教壮新役員決定

去る三月三十一日に、平成二十九年度の梅鶯仏教壮総会が開催され、新役員が左記の通り決定致しました。任期は平成三十三年三月末までの3年間です。

また、平成三十年度の行事予定も併せて決定されました。

## 新会長

### 森勝昭氏（再任）

|     |       |
|-----|-------|
| 副会長 | 田中直樹氏 |
| 副会長 | 森英雄氏  |
| 会計  | 田中善博氏 |
| 監査役 | 田中薫氏  |

## 平成三十年度行事予定

|           |          |
|-----------|----------|
| 5月27日（日）  | 例会（17時）  |
| 6月2日（土）   | 法輪寺永代経法要 |
| 7月29日（日）  | 例会（17時）  |
| 9月（未定）    | 親睦旅行     |
| 11月17日（土） | 報恩講      |
| 12月22日（土） | 竹灯籠の夕べ   |
| 1月27日（日）  | 例会（17時）  |
| 3月30日（土）  | 総会・役員会   |

## 会長就任のご挨拶

森勝昭（釋勝俊）



三月三十一日の総会に於いて会長を再選され、未熟な我が身を省みず引受けしました。

平成十五年六月一日にお念仏を悦び、互いに親睦を深め合うことを目的として、梅鶯仏教壮年会を設立して十五年が経過しました。

全国仏教壮年会の綱領は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪をひろめ、心豊かに生きる社会の実現を目指しますとあります。

まだまだ未熟な私ですが、住職様のご指導、会員様方々のささえがあったので今日まで活動を続けて来られました。

例会、別院めぐり、お寺の法要の参拝やお手伝いなどを通して仏縁を深めてきました。

坂田組・滋賀教区の仏教活動に積極的に参加して来しました。

そのおかげで多くの法友や仏縁に出会えて少しは成長し見聞を広めることができました。

少子高齢化により、どの組織

もその運営や維持が難しい時代となつています。

我が梅鶯仏教も設立からほぼ同じメンバーで高齢化しつつあります。

私達には、若い次の世代に声掛けし会員になって頂く大切な任務があります。

私は、本願寺長浜別院の世話係（小使い）を平成二十一年三月より勤め、今年で十年目を迎えました。

毎月五日と十六日の常例法座、三大法要、降誕会、夏中会、報恩講など、県内各組のご講師の法話などで知らなかったことや、初めてそんな世界があったのかと聴聞させて頂きました。

お参りされている方々の顔ぶれがすっかり変わり、時の流れを感じます。

どうか皆さんも別院まで足を運んでご縁を頂いて下さい。

本年度の別院めぐりは、大阪の津村別院（北御堂）と南大阪地方の散策を立案しています。

どうか今から心の準備をお願いします。

これから三年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。合掌

# 題材法話

正信偈に「一切善惡凡夫  
人聞信如来弘誓願 仏言  
廣大勝解者 是人名分陀利  
華」とあります。

「意訳では「仏の誓い信ず  
れば、いとおろかなるもの  
とても、すぐれし人ともほめ  
たまひ、百蓮華とぞたたえ  
ます」と唱えますが、つま  
り「南無阿弥陀仏を悦ぶ人  
は、百蓮華のようだ」と讃  
えられてゐるのです。  
この分陀利華・百蓮華と  
いうのは、蓮の花の中でも  
最も高貴な「白蓮の華」の  
ことです。  
蓮の花は、きれいな水の  
中や水はけの良い場所には  
育たずに、黒い泥沼の中  
その汚泥を吸収しながらも  
それにはけつして染まるこ  
となく純白の華を咲かせま  
す。  
そういうところから仏教  
ではよく、煩惱具足の衆生  
が煩惱の泥にまみ  
れながら、その  
煩惱を断つことも  
ないまま、南無  
阿弥陀仏の純白の  
信心の花を咲かせ



ることを、蓮の花にたとえ  
ていうことがあります。  
実はこの蓮の花、泥の中  
に咲く、このことだけでは  
なく、このことも含めて四  
つの徳が表されているとい  
われます。

## ○「朝開夕閉」の徳

その一つは「朝開夕閉」  
というもので、蓮の花が朝  
開いて夕方には閉じるとい  
うことは、私たちの命は一  
日一日の命として、毎日を  
けじめをつけながら大切に  
生きなければならぬ、と  
いうことを進めています。  
朝お仏壇にお参りして精  
一杯の一日を送ることを誓  
い、夕べには、勤め終えた  
一日を感謝してお仏壇にお  
参りする。  
そのような充実した一日  
を送らせて頂きたいとい  
うことです。

## ○「一茎一花」の徳

二つ目は「一茎一花」と  
いうことで、蓮の  
花は一つの茎から  
枝分かれをすると  
一つの茎には、そ  
う一つの花、そしてそ



の実をつける、と云うことの  
徳です。  
これは私たちが、拠り所と  
する真実の教えは、ただ一  
つ南無阿弥陀仏のご本願し  
かなく、間違ひなく正しい  
一本の道を進んでいくこと  
が大切なのだという、信仰  
の純粋性を表しています。

## ○「華果同時」の徳

そして三つ目は「華果同  
時」とい、蓮の花は、花  
が咲くと同時に実を付ける  
という、この徳です。  
まのご本願に出会い、お念  
仏を申そうと思ふようにな  
ったとき、まさにその時が  
必ずお浄土に往生できると  
定まつたときなのだという  
ことを表すものです。  
お念仏を申そうという花  
が咲くと同時に、阿弥陀さ  
まの摂取不捨という実が成  
るのです。  
なお、蓮の花が咲いた時  
に実に見えるのは、実際は  
しべだそう、この  
れは味わいの上で  
のことです。

## ○「泥中君子」の徳

そして最後の四



つ目は「泥中君子」という  
ことで、泥の中から君子が  
育つという徳です。  
つまり蓮の花は汚れた泥  
の中から茎を伸ばし、その  
泥に染まることなく、清らか  
な花を咲かすという、一般  
的によくたとえられる徳で  
す。

私たちは、「好きだ、嫌  
いだ」「もつと欲しい、ま  
だ足りない」といふたよう  
な毎日を送っています。ま  
さに煩惱という泥の中で  
ごめいてゐるのです。  
その泥の中の私が、弥陀  
の本願の一人働きにより、  
浄土往生という真つ白な花  
を咲かすことが出来るので  
す。  
蓮の花は、泥が濃いけれ  
ば濃いほど大輪の花を咲か  
すそうです。  
私たちの煩惱も深ければ  
深いほど、阿弥陀さんの働  
きかけが大きいのです。  
以上、蓮の花に見るこの  
四つの徳は、いづれも私達  
浄土真宗のお念仏を悦ぶも  
のにとつては大切なことば  
かりです。ともに味わいた  
いと思います。